

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

# さんさん広場

## 第 128 号

《編集・発行》

瀬戸内市民病院広報委員会  
瀬戸内市邑久町山田庄 845-1  
TEL (0869) 22-1234  
FAX (0869) 22-3296  
URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



《理念》 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。



「干支の卯（えとのう）」 写真は市内の工房で製作された今年の十二支の「卯」です。卯（うさぎ）は温厚な性質から「家内安全」、また「飛躍」、「向上」の象徴ともされています。一方、「植物の成長」という意味もあって新しいことに挑戦するのに最適な年とも言われています。令和5年度は当院の「経営強化プラン」元年です。過信と油断で亀に負けた教訓を生かし、成果に結びつけたいと考えています。（経営企画室次長 馬場洋一）

## 目次

- |                       |    |                          |    |
|-----------------------|----|--------------------------|----|
| □ 写真 「干支の卯（えとのう）」     | …1 | □ 西病棟 回りハカフェあるばむ         | …6 |
| □ 新春のご挨拶（病院事業管理者・病院長） | …2 | □ 漫筆「見たり・聞いたり・言ったり」      | …6 |
| □ 新春のご挨拶（病院事業部長）      | …2 | □ 医療安全管理研修会を終えて          | …7 |
| □ 新春のご挨拶（参与）          | …3 | □ シリーズ眼科の検査（6）           | …7 |
| □ 新春のご挨拶（看護局長）        | …3 | □ 総合案内を飾る季節の花（お正月編）      | …7 |
| □ 新春のご挨拶（事務局長）        | …3 | □ 職員紹介コーナー『庭』            | …8 |
| □ 新春インタビュー「この人に聞く」    | …4 | □ 理念・基本方針                | …8 |
| □ 看護局から学会発表2題         | …5 | □ 編集委員のちょっと一服～オリーブの木の下で～ | …8 |

# 新春のご挨拶

## 「新年の挨拶」



病院事業管理者  
病院長 竹内龍三

明けましておめでとうございます。

皆さんはどんな新年を迎えられましたか？日本ではwith Coronaに政策を切り替え行動制限のない新年となり、日本各地では3年ぶりの新年行事開催というニュースに溢れています。しかしながら第8波は統計発表以上に感染者は多いようであり、高齢者の死亡数は増加傾向にあり、医療人としてはまだまだwith Coronaに喜んでいく訳にはいきません。今年も感染拡大を少しでも抑えるべく、病院を挙げて診療にあたりたいと思っています。

それと並行して今年も病院の新たな事業として、病院建物の一

角に3月から訪問看護ステーションを設けることになりました。この事業は病院の基本方針である「地域で必要とされる医療の提供」を基に、より身近な医療機関として、市民の皆様へ便宜を図り、喜んでいただけることを目的としています。当初は看護師による自宅訪問・24時間電話対応などにて病気や治療の相談・アドバイスにあたる予定ですが、瀬戸内市内における更なる高齢化社会にあつては、この事業は今後とも必要かつ重要な事業の一つと位置付けており、ゆくゆくはステーション自体を徐々に拡大し、医師による診療やリハビリテーション、栄養指導なども取り入れた総合的な訪問看護ステーションにしたいと計画しています。

## 『「治す」医療から『治し支える』医療へ』



病院事業部長 小山洋一

明けましておめでとうございます。

瀬戸内市民病院は、新病院建設を機に急性期病棟に加えて在宅患者や介護施設で療養している患者、また高度急性期治療後の患者の継続治療とリハビリテーションを目的とした地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟を開設し、邑久医師会をはじめ関係医療機関や介護サービス事業者と連携を図りながら在宅復帰を支援する「治す」医療に取り組んでまいりました。

しかしながら今般の新型コロナウイルス感染症対応では検査、外来診療、入院治療等において当院の果たす役割の重要性を改めて確認した一方で、感染リスクへの不安から診療控え

によって退院後に在宅で療養を続ける患者の病状悪化や糖尿病など、生活習慣病の重症化といった課題への対策を講じる必要性も認識しました。

今後、人口減少や少子高齢化に伴う医療ニーズの変化・多様化に 대응される病院として入院治療、救急医療、専門領域の診療、健康診断等の一層の充実を図ると共に、コロナ禍で顕在化した新たな課題に対応するため本年3月より訪問看護ステーションを開設し、在宅医療にも取り組んでまいります。

当院を取り巻く環境は、現在も猛威を振るう新型コロナウイルス感染症による医療のひっ迫や医師の時間外労働規制への対応が迫られるなど、依然厳しい状況にあります。が、団塊の世代が全て75歳以上となる2025年に向けて、入院治療で「治す」医療に訪問看護による在宅医療や外来診療を加えて「治し支える医療」を提供することで、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたいという市民の皆さんの思いに添えてまいります。



# 新春のご挨拶



参与 上井 勉

## 「一歩前に進む佳き一年に」

明けましておめでとございます。

新型コロナウイルス感染症への対策はもう3年となりました。ここ1年の間に「ステイホーム」から「ウイズコロナ」と呼ばれるように、感染防止対策を行いながら社会経済活動の再開、継続がされてきました。しかしながら、昨年7月からの第7波、そして11月からの第8波と感染の猛威は収まる心配がありません。そうした中、日々病院機能を守るべく職員一同、感染防御に努めております。

コロナ以外にも病院を取り巻く環境は大きく変

## 「市民に必要とされる病院に」



看護局長 天野 芳子

化していきます。2024年までには医師を含めた働き方改革の実施、そして、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」による経営強化プランの策定があります。本年はその準備を一層加速していく年となります。当院の理念である「市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。」を今後もしっかりと継続できるよう、さらなる努力を重ねてまいりますので、よろしくお願いいたします。

今年が皆様にとってウサギのように一歩「びよん」と前に進む佳き1年となりますよう願っております。

今年が皆様にとってウサギのように一歩「びよん」と前に進む佳き1年となりますよう願っております。

今年が皆様にとって良き一年になるよう心から願っています。本年もよろしくお願いたします。



事務局長 野口 一成

## 「職員の叡智を結集した経営を」

新年あけましておめでとうございます。

当院は、過去3年間新型コロナウイルス感染症との闘いに挑み続けています。これからも新型コロナウイルスと向き合いつつも、新年を迎え、新たに進めていくことがあります。それは、昨年3月に総務省から示された公立病院経営強化ガイドラインに基づいた経営強化プランの策定であります。令和6年度からの4年間について、ガイドラインで示された内容(①役割・機能の最適化と連携の強化、②

医師・看護師等の確保と働き方改革、③経営形態の見直し、④新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組、⑤施設・設備の最適化、⑥経営の効率化)について、具体的に、いつ、どのような取組を実施していくのかについて、取りまとめなければなりません。今回は、特に『持続可能な地域医療提供体制の確保』という言葉は重要であり、公立病院として今後存続していくためには、その地域で必要な医療を提供しながら、経営・3

## 新春インタビュー「この人に聞く」

感染対策委員会副委員長（外来看護師長）岡部恭子

第8波の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は、県内でも連日3000人を超えるなど高止まり傾向が続いています。このような中、当院では感染対策委員会が感染管理対策の司令塔として機能しており、委員長である岡本章一医療技術局長とともに、患者さんや職員、訪問者の全員を感染から守ることを使命とし、水際対策を支える同副委員長の岡部恭子外来看護師長にインタビューしました。



Q1 第8波にまで及ぶコロナを経験して感じたことは何でしょうか。

A：自分が感染管理の仕事をしているこのタイミングで、まさか歴史に残るパンデミックを経験するとは思ってもみませんでした。ある日突然、コロナの大きな渦に飲み込まれ、今まで経験したことのない感染対策の数々を実践することになりました。すぐに感染対策マニュアルを開き新型インフルエンザの対策を見ましたが、実践に使えるものはほとんどありませんでした。保健所や最前線でコロナ対策を実践している医療機関にアドバイスをいただき、押し寄せる波を乗り越えながら体制を整え、対策を見直しました。最初は感染対策に関わる医師と看護師数人でしたが、波を乗り越える度、コ・メディカルや事務職員などすべてのスタッフで感染対策ができるようになり、今では防御力が相当強化したと感じています。

Q2 ご苦労されたコロナ対策の中で、仕事観に影響のあった学びとは何でしょうか。

A：経験したことのないことが起きた時、スタッフが連携し、全員で感染対策ができることがとても重要だということです。感染対策に皆が同じ意識で、同じレベルの対策ができること。そして、感染に関する専門的な意見や対策に対し決定権のある院長はじめ幹部職員が、決断し、支持してくれたことで今日まで効果的な感染対策ができたのだと考えています。

Q3 これまでの経験を踏まえ、日常業務の中でどのようなことに挑みたいですか。

A：必ず、感染症のパンデミックは起こりうる、と思っています。この経験を今後はアフターコロナの感染対策に生かすとともに、誰でも見ればすぐに対応できるようなわかりやすいマニュアルを作成し、次代につなげたいと思っています。

Q4 外来看護師長として、感染管理看護師として、今後の抱負を教えてください。

A：看護師長を拝命し4ヶ月の新任です。失敗や悩むことも多いと思いますが、それを糧として成長できればと考えています。感染対策に関しては、奢ることなく悔ることなく、愚直に標準予防策を基本とした感染対策に取り組んでまいります。ご指導等よろしく願いいたします。

## 看護局から学会発表2題

看護局では毎年度運営目標を掲げ、医療の質向上等に取組んでいます。その中で、自己研鑽として看護研究を行うことが盛り込まれており、各看護単位で自主的に取り組み、その運営は看護教育委員会が行っています。

今回は、そのうち、11月に学会発表された2題について掲載させていただきました。



①褥瘡発生リスクの高い患者への個別性を考慮したケアと  
その効果  
北病棟（看護師） 岩野麻衣子

令和4年11月12日（土）、「地域での暮らしを支える看護の役割」をテーマに、令和4年度岡山県看護学会が岡山県看護会館

で開催されました。私は研究部門として「褥瘡発生リスクの高い患者への個別性を考慮したケアとその効果」をテーマに北病棟での研究結果を口頭発表させていただきました。コロナ禍で中止、またはオンライン開催と自粛が続いていましたが、数年ぶりの開催とのこと、当日は会場・オンラインと非常に多数の看護師の参加があったようです。

今回の研究は急性期病棟において全身状態が不良・高齢・低栄養などの褥瘡発生リスクが高い方を対象に、現状以上に何を行えば更なる褥瘡予防につながるかを個別的に検討するという内容で行いました。研究期間は3か月と短期間でしたが、6名の患者様にご協力頂き、当病棟に不足しているケアを明らかにすることができました。研究後は結果を活かし、除圧用枕の新規購入や臀部の石鹸洗浄、処置後にも必ず体位を整えるなどのケアを取り入れ、新規褥瘡発生予防に努めています。

今回看護研究を行った経験は煩雑な日々の業務をゆっくり振り返ることができ、より良い援助を行う為には何をすべきか考えていく貴重な機会となりました。ご協力いただいた患者様、ご指導していただいた方々に感謝いたします。



②地域密着型病院における外来糖尿病看護チームが有機的に機能するためのシステムの構築  
外来（看護師） 川島由紀

令和4年11月11日（金）～12日（土）、広島国際会議場において、日本糖尿病学会中国四国地方会第60回総会が開催されました。「地域密着型病院における外来糖尿病看護チームが有機的に機能するためのシステムの構築」と題し、療養指導の部で研究発表を行いました。

今まで以上に糖尿病患者、ご家族の方々に必要とされる在宅療養支援を行うために、令和2年1月に糖尿病看護チームを編成しましたが、チームとしての機能を高めるために実態調査を行い、糖尿病指導予定表

や在宅療養指導のフロー図の作成、療養指導室の整備などシステムの構築までの過程を発表しました。

学会では、糖尿病の薬物療法や合併症治療の最新情報を学ぶことができました。また各施設での療養指導の取り組みや症例発表を聞き、個々の生活に合った在宅療養支援の必要性や、より多くの生活状況を知ることが療養支援に繋がることであると改めて感じました。

この度の貴重な学会参加での学びを、今後の日々の看護に活かし研鑽に努めたいと思います。また今回の研究発表に際してご指導して下さいました皆様に感謝申し上げます。

なお、本研究の概要は令和4年10月30日（日）開催の第59回岡山県国保診療施設研究発表会においても発表させていただきました。





# 西病棟 回りハカフェあるばむ

体力、知力、声力に磨きをかけよう

クリスマス会  
11月30日(水曜日)



風船羽子板  
12月28日(水曜日)



## 漫筆 「見たり・聞いたり・言ったり」(13)

かつて勤務した職場で、上司から「人に聞かれたら、わからないと言うな」と注意されたことがある。自分の所掌の範囲のことであれば安易にわからないなど口にするな、という戒めだったと思う。その後、私は人にものを聞かれたとき、「わからない」とは言わず「確認します」とか「勉強してみます」などと表現を変えていた。時折、相当な立場の人が平気で「聞いていない」と口にしていて、折角、相当な立場の人が平気で「聞いていないのであれば致し方ないし、「知らなかった」も正直と言えそうである。しかし、組織の中で特に上下関係の中で「聞いていない」を用いれば、責任逃れの保身が見え隠れする言葉であり、「知らない」、「わからない」は関係遮断につながりかねない言葉のように感じる。▼先日、小泉純一郎さんが総理大臣当時、国会で演説に引用し脚光を浴びた佐藤一斎(江戸時代の儒者)の「言志四録」(現代語新訳)という本の中で、次のような言葉に出会った。『諺(ことわざ)に「禍(わざわい)は下より起こる」というのがある。だが、私はこう思う。「この諺は国を滅ぼすものであって、人の上に立つ者に、こういうことを信じさせてはならない」と。禍というものは、すべて上より起こるものである。下から出た禍でも、上に立つ者が働きかけて、そうさせているものである。』要は、上がちゃんとした見本となっていれば、下の者はそれを見習うもので、すべての責任は上にある、と説いているのである。つまり、下から情報が上がってこないのは、自らそのような雰囲気醸し出しているからではないのか。「聞いていない」という言葉は無闇には使えない、と改めて「人のふり見て我がふり直せ」と自省した。

(経営企画室次長 馬場洋一)

## 医療安全管理研修会を終えて

令和4年度、全体研修2回目となる医療安全管理研修を、12月16日(金)、「医療事故と訴訟…事例を含めて」と題して、鳥取市にありますウエルフェア北園渡辺病院 井上一彦先生を講師にお招きし、十分な感染対策を行いつつ実施しました。

講義の中で、「医療事故に対する対応や医療事故防止への取り組みは以前から行われていたが、1999年1月11日に起こった手術患者の取り違え事故、同じ年の2月11日に起こった注射薬と消毒薬の誤注射事故が医療安全元年のきっかけとなった。そして、全国の多くの病院や行政などさまざまな団体が医療安全対策に力を入れるようになり、医療者に対する「医療安全教育」にもこれまで以上に時間が割かれるようになった。医療におけるリスクマネジメントとは患者の安全を確保するために医療上のリスクを洗い出し、事故防止対策を施すこと。当事者になれば民事責任(損害賠償)・刑事責任(罰金、禁錮、懲役)・行政責任(業務停止)として、各法令に照らし責任を負わなければならない可能性がある。医療事故のリスクには医療訴訟のリスク

も含まれるため、リスクマネジメントには、訴訟対策や訴訟にならないための患者や患者家族とのコミュニケーション技術やインフォームドコンセントも含まれる。」とお話になられました。

私もお話に感銘を受けましたが、当院の医療安全管理に携わる者として、『人は誰しも間違える』ことはあるが、未然に防ぐことも多いと考えています。間違えた事実をまずは明らかにし、その原因や背景を詳らかにする中で、学び、改善につなげていくという、地道な作業や対策が医療事故の防止につながるものと確信しています。

(医療安全担当看護師長

野口佐登美)



### 総合案内を飾る季節の花(お正月編)



お正月、縁起のよい生け花がお出迎えいたします。不老長寿の象徴「松」を中央に、難を転ずるに通ずる「南天」は赤い実をアクセントに左側に配置、江戸時代には火災除けの効果があるとされていたようです。前面にはめでたいときに必ず用いられる色、紅白セットの「葉牡丹」、花言葉は『祝福』。そして大きく華やかな「ユリ」は、今はつぼみですが徐々に花が咲いていく様子を長く楽しむことができそうです。花言葉は『純潔・威厳・無垢』、新年のスタートに相応しい花たちの豪華な競演が見どころです。

(広報委員会)

### シリーズ眼科の検査(6)

(Q) 角膜内皮細胞検査とは？

(A) この検査は、専用の機器で、角膜(くろ目)の写真を撮り、1平方ミリメートルあたりの細胞数をカウントする検査です。主に白内障の手術前後や、長期間コンタクトレンズを使用されている方が検査対象です。この細胞が少なくなると、角膜に様々な影響がでて、白内障の手術ができないとか、角膜が白く濁って見えなくなるといったこともあります。酸素を取り込んだり、角膜は5層構造になっており、一番内側の層に内皮細胞があります。酸素を取り込んだり、角膜の透明性を保つ働きをしています。二千個以上が正常範囲とされておき、年齢と共に減少していきますが、コンタクトレンズの長期装用による酸素不足や、手術による侵襲などでさらに減少します。そして減少した角膜内皮細胞は再生されません。コンタクトレンズは、装用時間や使い捨ての期限を守り、適正な使用が大切です。

(視能訓練士 高下隆恵)



職員紹介『庭』  
コーナー



いいつか よういち  
事務員(主査) 飯塚 陽一

こんにちは、事務局主査の飯塚陽一です。令和4年4月に瀬戸内市役所から異動してまいりました。職員皆様のご協力や、来院される皆様の温かい激励をいただきながら、日々の業務にあたっています。最近、自宅では小学生の子ども3人とユーチューブを見たり、テレビゲームをして過ごすことが多くなった気がします。特にコロナが始まってからは、以前にもまして出不精になっています。そこで過日、出不精(※デブ症)と運動不足解消を目的とし、自宅周辺を散策してみました。すると平素意識したことのない風景との出会いなど、思いのほかリフレッシュ効果があることに気が付きました。これからも、散策のほかできるだけ体を動かすように心がけたいと思います。

★★ 次号の「庭」★★

事務局主査(診療情報管理士)の正岡彰朝さんです。  
ご期待ください。

＜理念＞

市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。

＜基本方針＞

1. 地域で必要とされる医療を安全・安心に提供します。
2. 人を大切にし、患者さまの尊厳と権利を尊重します。
3. 医療・介護・保健・福祉施設等と連携し、市民とともに地域包括医療・ケアを進めます。
4. 常に自己研鑽に励み、医療の質向上に努めます。
5. 市民に必要とされる医療人を育成します。
6. 健全な経営基盤を確立します。
7. 楽しく働き甲斐のある職場をつくります。

編集委員の

ちよっと一服



～オリーブの木の下で～

寒い日が続きまだまだコロナの流行も収まらない中、この冬はインフルエンザの患者さんも増えるのではないかとTVで流れています。腸内環境を整えると免疫力upが期待できると言われているため、発酵食品をできるだけ摂るように心がけています。ヨーグルト、甘酒、みそ汁、納豆、美酢など……。どれほど効果があるのかはわかりませんが、免疫力をUPしてコロナやインフルエンザに負けない体づくりができるといいなあと思っています。(K)